



特殊詐欺の発生状況

平成30年中、熊野署管内では2件の特殊詐欺被害が発生しました。7月には架空請求詐欺により35万円の被害が発生し、11月には還付金詐欺により約100万円の被害が発生するなど厳しい状況にありました。加えて、被害の発生には至らなかったものの、架空請求詐欺の葉書が自宅に郵送されてきた等の相談を多数受理しており、油断ならない状況が続きました。

一方で、被害防止に向けた広報啓発活動や金融機関・コンビニ店舗等に対する水際対策を推進した結果、コンビニ店舗において店員の声掛けにより振り込め詐欺被害が防止されるなど、取組の効果が現れました。

犯罪の発生状況

平成30年の刑法犯認知件数は67件と前年同期比で11件の減少となりました。

全体の約7割を占める窃盗犯は49件と前年同期比で10件の増加となっており、依然として大きなウェイトを占めています。

窃盗犯の増加の要因としては、出店荒しなどの侵入窃盗事件や部品ねらいなどの非侵入窃盗事件の増加があり、同種犯罪の抑止と被疑者検挙が課題となっています。

	H30 1~12月中	H29 1~12月中	前年対比
総発生件数	67	78	-11
凶悪犯	1	1	
窃盗犯	49	39	10
粗暴犯	6	8	-2
知能犯	3	11	-8
その他	8	19	-11

刑法犯少年の数は3名で昨年より1名増加しましたが、特別法犯少年は0名でした。不良行為少年については、昨年より半減していますが、依然として深夜はいかい、喫煙などで補導される少年の割合が高い状況となっています。

	H30 1~12月中	H29 1~12月中	前年対比
総員数	31	64	-33
刑法犯少年	3	2	1
特別法犯少年	0	1	-1
不良行為少年	28	61	-33

熊野市内の交通事故情勢

道路形状別では、単路が13件と約6割を占めています。昼夜別では昼間が19件と約9割、事故類型別では車両相互が16件と約8割を占めています。高齢者の負傷者は7名と前年同期比で4名の増加となりました。また、路線別で見ると国道42号が11件と約5割を占めています。

	H30 1~12月中	H29 1~12月中	前年対比
総発生件数	398	412	-14
物件事故件数	377	386	-9
人身事故件数	21	26	-5
死者数	2	0	2
負傷者数	22	35	-13

交通死亡事故の特徴

平成30年の三重県の交通事故死者数は87名（前年比+1名）となりました。

交通死亡事故の特徴としては、

- ・高齢者が6割以上を占める
- ・交通弱者（歩行中・自転車乗用中）が4割を超える
- ・シートベルト非着用者が5割を超える
- ・飲酒運転が根絶に至っていない

となっています。



これらの交通死亡事故の特徴を踏まえ、安全運転をお願いします。

テロ対策へご理解とご協力を

テロ情勢が依然として厳しい中、県内外においては、本年の天皇陛下の御退位・御即位に伴う諸行事やG20サミット、ラグビーワールドカップのほか、来年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会、再来年の三重とこわか国体など大規模行事が開催されます。

これらの行事は、国際的な注目を集めるため、テロのターゲットとなり得ます。

当地域は、東京オリンピック・パラリンピック競技大会では台湾のホストタウンに決定しているほか、国体ではソフトボールやラグビーフットボールの競技会場となります。

皆様の普段の生活にテロ対策の視点を少し加えていただくことが、テロの防止につながりますので、皆様のご理解とご協力をお願いします。